

平成 24 年 5 月 5 日

IWGA 会長一行の「空道視察」行事の総括

国際・全日本空道連盟 理事長
大道塾 代表師範・塾長 東 孝

前略

19日から23日までのIWGA 会長 Ronald Froehlich 氏, 同 CEO (Chief Executive Officer 最高経営責任者 実質 NO2) Joachim Gossov 氏の 空道視察の為の来日期間中は、久々に味わう刺激の連続でした笑。その後、その残務整理も終わらないうちに慌ただしく 26 日からの「リトアニアセミナー・審査」の準備、遠征と続き、多くの方々が気に掛けているにも拘らず、報告できないで今日まで来ました。

さて、端的に言うと、今回の一連の視察、関係者会談において、現時点では「2013 ワールドゲームズカリ大会」での公開競技参加決定！とはなりませんでした。

一つには「WG への参加要望が急増し」(関係者)、これまで以上にハードルが高くなっており、当 KIF が整えなければならない新しい条件が生じてきたこともあるようです。

前回来日し「北斗旗無差別大会」を観戦したカリ市の大会ディレクターが、期日や大会内容までの踏み込んだプランを提示していたし、IWGA 会長の「空道視察」の為の来日には、カリ市側から「今回は開催都市であるカリ市の市長名代でスポーツ局長が行くので、強力にバックアップするから」というメッセージがあったのですが……。

しかしながら、IWGA 会長 Ronald Froehlich 氏から「多くの競技からの申し込みがあるので(特に格闘技は訳が分からない!) IWGA が提示した条件の整備は必須条件だが、今回示された空道の規則的成熟度、組織的な健全度、充実度から、今まで例のないことではあるが、まずは WG2013Cali の期間中に何らかの形で発表する機会を設けよう」と言っていました。

この世界的なスポーツ組織の Ron 会長の言葉は、「空道」という競技の存在が世界的な規模で正式に認識されたということで、これだけでも十分な成果といえますが、更にはその加盟に向けた道筋(文言だけではない)好意的な指導の言葉が得られたことは、「空道」の今後に大きな励みとなりました。

また国内的には、今まで中々接触の機会さえなかった JWGA (日本ワールドゲームズ協会) と、一連の行事の中で繋がりができたことで、今後の国内での公的機関へのアプローチの端緒が開けたことや、JWGA の幹部の方たちも驚いた「KIF (国際空道連盟)」という新興団体が、『あの忙しい Ron 会長』を単独で、しかも空道という新しい競技の視察、そのことだけの為に呼べた! という“組織力”や、関連行事のために数度の打ち合わせや相談事を通じて、「武道・格闘技界にありがちな不明朗な後援組織とのつながりもない“健全性”などを理解」して頂いた事は、大きな成果と言って良いと思います。

更には今回のキャンペーンの元になったカリ市からは「我々はまだ諦めてはいない。12 月には再び塾長にカリ市に来ていただき、空道を学校体育に入れるためのキャンペーンをする」という申し出もされており、可能不可能は別にしても、その折には今回の WG 大会参加運動の端緒となった「南米選手権大会」(新設の「デトロイト支部 (USA) も) の、第 2 回大会を行い南北アメリカでの空道の発展を加速させたいと思っています。

別件ですが今回の「デモマッチ」の後にはすぐにリトアニアでのセミナーを行いました。今年中だけでもあと数回の海外セミナーが控えており、「空道」は益々世界に向かって拡大しています。

我々執行部だけではなく、選手をはじめ支部長・責任者は、「空道」が今、現実に大きな門の前に立っている事を自覚し、一丸となってその扉を押しあけようという気概を持たなければなりません。

「天は自ら助けるものを助ける」です。

以上